

2017年6月5日

朝礼の話 (2017年6月)

皆さんお早うございます。先月中旬以降、概ね好天で最高気温も 30℃を超える日が続いていました。気象庁からの梅雨入り発表は未だありませんが、平年では今週の 7 日か 8 日が梅雨入りといわれています。まもなく梅雨入りとなりその後約一月半梅雨空の鬱陶しい日が続くこととなります。梅雨時といっても好天の日には気温も上昇し暑さ対策が必要となり、雨天の日には梅雨冷えに注意が必要となります。湿度の高い気候とともに気温変化も大きくなり体調を崩しやすくなります。いつもながら健康管理に留意してください。

トランプ米大統領は 1 日、地球温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」から離脱すると発表しました。オバマ前政権はパリ協定で温暖化ガスを「2025 年までに 05 年比で 26~28% 削減する」との国別目標を表明し、途上国の温暖化対策を支援する緑の気候基金に 30 億ドルの拠出を約束していましたが、トランプ氏は国別目標の履行の撤回や基金への拠出の中止を表明しました。世界第二位の二酸化炭素排出国である米国がパリ協定から離脱すれば、国際協調の機運に悪影響が出ることは避けられません。パリ協定は、2015 年 12 月にパリで開かれた第 21 回国連気候変動枠組み条約締結会議 (COP21) で採択され、16 年 11 月に発効しました。今世紀後半に温暖化ガスの排出を実質ゼロにし、産業革命前からの気温上昇を 2 度未満に抑え、さらに 1.5 度未満を目指すものです。1997 年に採択された京都議定書は、中国、インドなど新興国の反対で、先進国のみ温暖化ガスの削減目標を義務付けましたが、パリ協定は、途上国を含む 194 の国・地域が参加し、各国が目標設定と削減の実行を継続的に進める仕組みとなっています。世界全体の二酸化炭素排出量は、2014 年現在で 330 億トンと推計され、第一位中国 (28.3%)、第二位米国 (15.8%)、第三位インド (6.2%)、第四位ロシア (4.8%)、第五位日本 (3.6%) となっています。日本の削減目標は、2030 年度までに 2013 年度比 26%削減するとなっています。トランプ氏は離脱表明の一方で協定の再交渉を提案しましたが、独・仏・伊の 3 首脳は即座にその提案を拒否する共同声明を出しました。米国内でも、自治体、産業界、環境団体などから強い反発が起こっており、大統領の声明に拘らず、独自にパリ協定に基づく温暖化対策を進める動きが相次いでいます。ニューヨーク、カリフォルニア、ワシントン州の 3 知事は協定の内容を順守する同盟を結成し、全米 85 都市の市長も協定に基づく対策を各都市で実行する方針を共同で表明しました。米産業界も温暖化対策を継続し、環境技術開発を進めていくと表明しています。しかし、新興国や途上国が米国に追随して、対策に後ろ向きになれば、協定の実効性が弱まるのは避けられません。パリ協定のみならず TPP からの離脱、各経済協定の見直しなど既存の国際協調の枠組みをないがしろにするトランプ氏の言動は、世界の諸問題、諸課題の解決には大きなマイナス要因となる恐れがあります。日本も日米同盟を堅持する一方で、様々な国際的課題については国益の優先と国際協調の両面から独自に判断し行動していくことが求められます。

以上